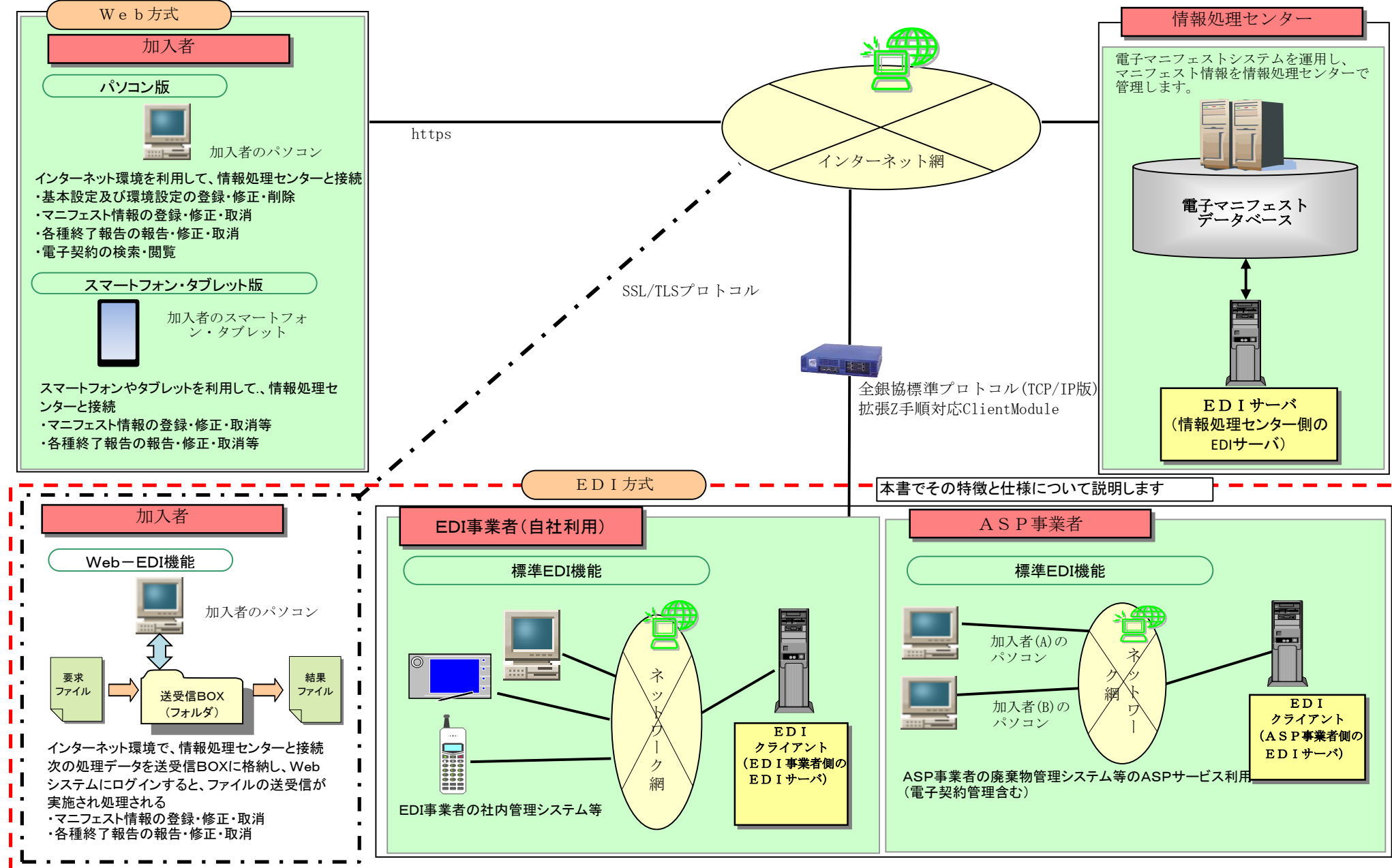


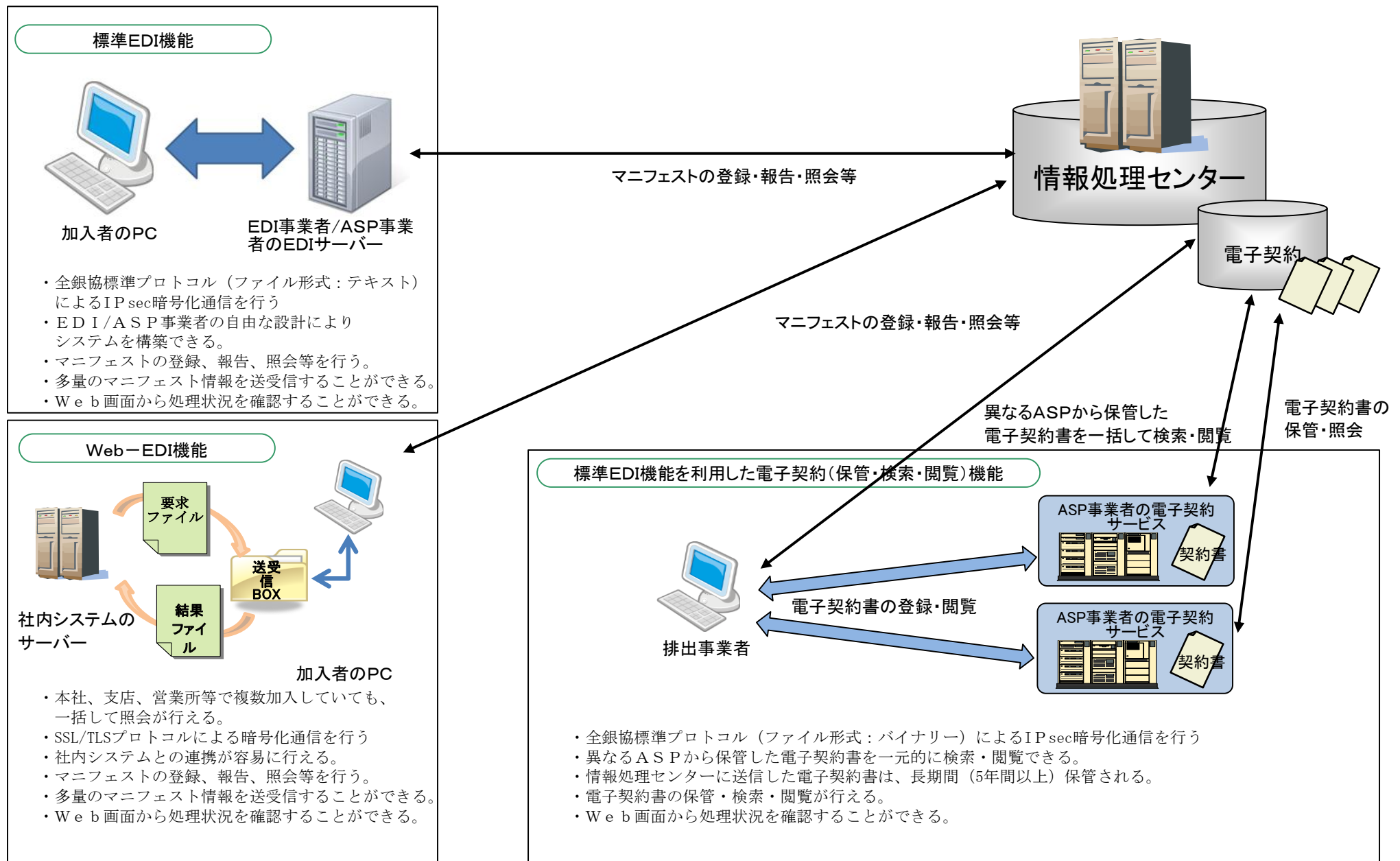
1．E D I 方式の概要

- 1－1．電子マニフェストシステムの構成
- 1－2．E D I 方式各機能（システム含む）の特徴（概要）
- 1－3．標準E D I 機能の特徴
- 1－4．電子契約（保管・検索・閲覧）機能の特徴
- 1－5．W e b－E D I 機能の特徴

1-1. 電子マニフェストシステムの構成

電子マニフェストシステム（JWNET）は、加入者の様々な利用方法を考慮し、Web方式、EDI方式の2つの方式から構成されます。





1－3．標準E D I 機能の特徴

(1) 加入者の自由な設計によりシステムを構築できます

E D I 方式では、本仕様書で指定する通信手順、ファイルフォーマットに合わせて、マニフェスト情報の送受信を行う仕組みです。
W e b 方式のようなマニフェスト情報登録画面やマニフェスト情報照会画面というユーザインターフェースを備えていない為、加入者が自ら必要なインターフェースを開発する必要があります。E D I 事業者/A S P 事業者が自らシステム開発できるため、加入者がより利用しやすく、独自の機能を備えたシステムを構築できます。

(2) 多量のマニフェスト情報を送受信することができます

E D I 方式では、W e b 方式に比べ、多量のマニフェスト情報を送受信することができます。
マニフェスト情報の取扱数が多い加入者に適した仕組みです。

(3) 複数加入者のマニフェスト情報をまとめて送受信することができます

加入者番号が異なる複数加入者のマニフェスト情報を、まとめて送受信することができます。
例えば、収集運搬業者と処分業者で加入している場合は、運搬終了報告と処分終了報告をまとめて送信することもできます。

(4) 他アクセス方式と併用して利用することができます

マニフェスト情報は、情報処理センターのデータベースで一元管理しているため、W e b 方式と併用して利用することができます。
例えば、マニフェスト情報の登録処理、報告処理をE D I 方式で行い、マニフェスト情報の修正処理、取消処理を、W e b 方式で利用するなど、それぞれのシステムの特性を活かし、効率良く作業を進めることができます。

(5) 一括処理方式によりマニフェスト情報の登録・報告ができます

W e b 方式は、マニフェスト情報の登録や、運搬・処分の終了報告など、全ての処理を情報処理センターとインターネットのW e b 画面で実施する仕組みとなっていますが、E D I 方式は、情報処理センターに送信した要求ファイル（マニフェスト情報の登録、運搬・処分の終了報告などの情報を持つファイル）毎に一括で処理する仕組みとなっています。また、その結果ファイル（登録結果、報告結果などの情報を持つファイル）も一括で受信できます。
情報処理センターへの更新のタイミングを加入者が制御できると共に、一括で処理することができます。

(6) 処理状況を確認することができます

情報処理センターに送付したデータの処理状況をインターネットのW e b 画面を利用してご確認することができます。

1－4．電子契約（保管・検索・閲覧）機能の特徴

(1) A S P事業者で電子契約した情報を保管することができます

標準E D I 機能を利用して電子契約ドキュメントを送受信することができます。

(2) 登録内容を確認することができます

情報処理センターに送付した電子契約情報の処理状況をインターネットのW e b 画面を利用してご確認することができます。

1－5．W e b－E D I 機能の特徴

(1) W e b 方式の環境でファイルの送受信によりマニフェスト情報の登録・報告・参照ができます

W e b－E D I 機能は、W e b 方式と同様にP Cで利用することができます。

W e b－E D I 機能は、W e b 方式のようなマニフェスト情報登録画面やマニフェスト情報照会画面というユーザインターフェースを備えておらず、標準E D I 機能に準拠したファイルの送受信によりマニフェストの登録・照会が行えます。

(2) 本社、支店等で多量のマニフェスト情報の集計を行うことができます。

マニフェスト情報照会機能を用いれば、マニフェスト情報を、本社・支店の加入者番号で一括で多量に収集することができます。

(3) 他方式と併用して利用することができます

マニフェスト情報は、情報処理センターのデータベースで一元管理しているため、W e b 方式・E D I 方式と併用して利用することができます。

例えば、マニフェスト情報の登録処理をW e b－E D I 機能で行い、マニフェスト情報の修正処理、取消処理を、E D I 方式で利用するなど、それぞれの方式の特性を活かし、効率良く作業を進めることができます。

(4) 処理状況を確認することができます

情報処理センターに送付したデータの処理状況をインターネットのW e b 画面を利用してご確認することができます。